

▶ 申込方法

STEP 1 お申込み(先着順)

申込み手続き完了後は、参加分科会の変更はできませんのでご注意ください。

- 1 下記のURLから「メールアドレス確認フォーム」にアクセスし、メールアドレスを入力・送信してください。
- 2 送信いただいたメールアドレス宛に「参加申込フォーム」のURLをお送りします。
- 3 記載のURLにアクセスし、画面の指示に従って申込み手続きを行ってください。

※「参加申込フォーム」URL通知メールが届かない場合は、メールアドレス誤入力の可能性がございます。その場合は、お手数ですが、「メールアドレス確認フォーム」にメールアドレスを再入力・再送信してください。

STEP 2 参加費のお支払

申込み手続きが完了した方へは、後日、郵送にて払込票(請求書)をお送りいたします。最寄りのコンビニエンスストアで参加費をお支払いください。払込票の取り扱い可能なコンビニエンスストアは送付している払込票の裏面に記載しております。銀行などの金融機関ではお支払いできませんのでご注意ください。

【参加費支払締切: 2015年2月10日(火)】

※お申込み手続き及び、参加費のお支払が完了していない方はご参加いただけませんのでご注意ください。

※お支払いいただく参加費につきましては、いかなる理由があっても返金には応じられません。予めご了承ください。参加費をお支払いいただいたのち、やむを得ずご欠席された方につきましては、後日、FDフォーラム報告集を送付いたします。

STEP 3 参加証の受領

参加費の支払いが完了した方には参加証をメールにて送信します。

2月21日(土)までに参加証(メール)が届かない場合は、FDフォーラム事務局までお問い合わせください。

STEP 4 当日 参加証持参

当日はプリントアウトした参加証(メール)を持参して、受付にて提示してください。※代理の方が参加される場合は当日の受付にてお申し出ください。

▶ 申込期間 2015年1月6日(火)～1月29日(木) 【参加費支払締切: 2015年2月10日(火)】

加盟大学・短期大学 先行申込期間 2014年12月19日(金)～12月26日(金)

※大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の教職員・学生の方を対象に、先行申込期間を設けています。加盟校以外の方は1月6日以降のお申込みとなります。なお、先行申込期間中は、優先定員までの受付となります。

▶ URL <http://www.consortium.or.jp/project/fd/forum> もしくは

大学コンソーシアム京都

検索

▶ 参加費用

所属	区分	シンポジウム・分科会	情報交換会	シンポジウム・分科会 + 情報交換会
加盟 大学・短期大学	教職員	3,000円	5,000円	8,000円
	学生	無料	2,000円	2,000円
非加盟 大学・短期大学 その他団体・企業等	教職員、一般	5,000円	5,000円	10,000円
	学生	1,000円	2,000円	3,000円

第20回FDフォーラム企画検討委員会 ★…委員長 ☆…副委員長

★坂井 岳夫 同志社大学 法学部 准教授	坂本 尚志 京都薬科大学 一般教育分野 講師
☆村上 正行 京都外国語大学・京都外国語短期大学 マルチメディア教育研究センター 准教授	佐藤 賢一 京都産業大学 総合生命科学部 教授
井上 尚実 大谷大学 文学部 准教授	高橋 伸一 京都精華大学 人文学部 教授
大西 信弘 京都学園大学 バイオ環境学部 教授	手嶋 英貴 京都文教大学 総合社会学部 准教授
河原 宣子 京都橘大学 看護学部 教授	長谷川岳史 龍谷大学 大学教育開発センター長/経営学部 教授
木野 茂 立命館大学 共通教育推進機構 教授	巻本 彰一 京都教育大学 教育学部 准教授
児玉 英明 京都三大学教養教育研究・推進機構 教育IRセンター 特任准教授	松戸 宏予 佛教大学 教育学部 准教授
酒井 博之 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授	三好 明夫 京都ノートルダム女子大学 生活福祉文化学部 教授

宿泊施設の 予約について

お問合せ先

 大学コンソーシアム京都
法人 The Consortium of Universities in Kyoto

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 キャンパスプラザ京都
教育開発事業部 FDフォーラム事務局
TEL:075-353-9163 (日・月を除く9:00～17:00)
FAX:075-353-9101 E-mail:fd@consortium.or.jp

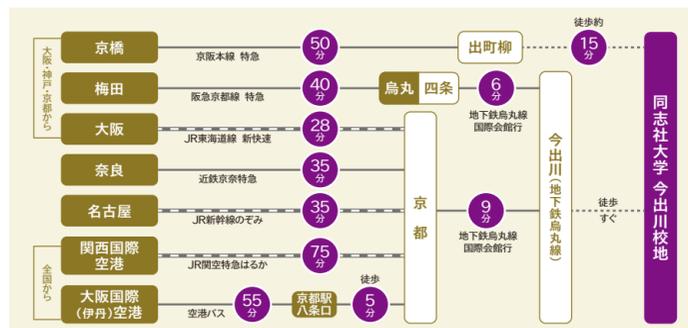
●会場へのアクセスマップ



●キャンパスマップ



●同志社大学今出川校地へのアクセス



※ご注意:学内には駐車場がございませんので、ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

会場となる同志社大学今出川校地にアクセスの良い宿泊先を宿泊施設予約サイトでご案内しております。大学コンソーシアム京都公式ホームページにある「第20回FDフォーラム」のご案内ページに、リンクを設けておりますので、そちらからアクセスしてお申込みください。

※宿泊施設予約サイトは、外部のサービスを利用しております。このサービスを利用してトラブルや損害等が発生しましても、大学コンソーシアム京都では一切の責任を負いませんので、予めご了承ください。

2014年度 第20回 FDフォーラム

学修支援を問う ～何のために、 何をどこまでやるべきか～

2015年 2月28日(土)
3月 1日(日)

同志社大学 今出川校地

- 1日目 室町キャンパス 寒梅館
- 2日目 今出川キャンパス 良心館

主催:  大学コンソーシアム京都
法人 The Consortium of Universities in Kyoto

後援: 文部科学省・京都府・京都市

学修支援を問う

～何のために、何をどこまでやるべきか～

定員 850名

グローバル化や経済状況などの社会の変化、大学に入学する学生の多様化を背景として、大学ではさまざまな学修支援が行われるようになってきている。大学として学修支援の充実は重要な課題であるが、一方で主体的な学びを促すことも求められており、学修支援のあり方が問われていると言える。

今回のシンポジウムでは「学修支援」を捉え直すことを目的として、いくつかの事例を概観した上で、学生の主体性を育みながら、その学びをどのように支援していくかについて議論していきたい。

シンポジスト

日向野 幹也氏 立教大学 経営学部 教授・リーダーシップ研究所所長
 【経歴】
 東京大学経済学部卒業、同大学院社会科学部博士課程修了、経済学博士(東京大学)。
 1983年東京都立大学経済学部講師、のち助教授、教授を経て、2005年立教大学経営学部教授・リーダーシップ研究所所長、現在に至る。
 2011年よりEast-West Centerにて客員教員。

溝上 慎一氏 京都大学高等教育研究開発推進センター 大学院教育学研究科 教授
 【経歴】
 1994年 神戸大学教育学部卒業
 1996年 京都大学高等教育教授システム開発センター助手
 2000年 同 講師
 2003年 京都大学博士(教育学)
 2003年 京都大学高等教育研究開発推進センター助教授(のち准教授)
 2014年 同 教授

浜島 幸司氏 同志社大学 学習支援・教育開発センター 准教授
 【経歴】
 2008年 上智大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得満期退学
 2007年 新潟大学全学教育機構 特任准教授
 2013年 立教大学大学院教育開発・支援センター 学術調査員
 2014年 同志社大学学習支援・教育開発センター 准教授

岡部 晋典氏 同志社大学 学習支援・教育開発センター 助教
 【経歴】
 2007年 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士前期課程修了
 2013年 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程退学
 複数の大学の専任講師を経て、2013年、同志社大学 学習支援・教育開発センター 助教に着任

村上 正行氏 京都外国語大学 マルチメディア教育研究センター 准教授
 【経歴】
 1997年 京都大学総合人間学部卒業
 2002年 京都大学大学院情報学専攻博士後期課程指導認定退学博士(情報学)
 2002年 京都外国語大学講師を経て、2007年より現職

スケジュール

	時間	内容	会場
2月28日(土)	12:00~13:00	受付	寒梅館
	13:00~17:10	シンポジウム	寒梅館ハーディーホール
	18:00~19:30	情報交換会	京都ブライトンホテル 地下1階「英の間」
3月1日(日)	9:00~10:00	受付	良心館
	10:00~12:00	分科会(午前の部)※1)	
	12:00~13:30	休憩	
	ポスターセッションコアタイム※2)		
	13:30~15:30	分科会(午後の部)※1)	

※1) 申込された分科会以外には参加することはできませんのでご注意ください。午前と午後は同じ分科会への参加となります。
 ※2) ポスターセッションは2日目の10:00~15:30にポスターを掲出いたします。コアタイムには、発表者がポスター前で参加者からの質問に答えます。

第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会	第5分科会
<h3>大学教育における「対話」の可能性</h3> <p>社会の急激な変化に直面する大学教育において、学生の学びを構築・支援していく際の重要な点として、多様性と複数性を承認する「対話的視座」を挙げることができる。予測困難な将来に対する課題に対して、従来のモノローグ的な方法で対処できないからこそ、他者や社会とつながり、予測不可能な新たな創造性へと通じる開かれた教育的な場や視座が模索される必要がある。その点で、自己を狭い領域の間人関係に閉ざすことなく多様で複数の他者や社会に開示しながら、その関心と呼び覚まし、さらには教育的な出来事に能動的に参与することによって自己の立場やものの見方や対象に対する理解を、他者との関係で深めていく、という「対話(ダイアログ)」の観点は有効であるように思われる。</p> <p>本分科会では、「対話」という観点を、教育の授業の場に取り入れていく実践的な事例を参考にしながら、大学教育における「対話」的教育の可能性を検討する分科会にしたい。</p> <p>コーディネーター 高橋 伸一氏 京都精華大学 人文学部 教授</p> <p>報告者 谷 美奈氏 帝塚山大学 全学教育開発センター 准教授</p> <p>田島 充士氏 東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 准教授</p> <p>筒井 洋一氏 京都精華大学 人文学部 教授</p> <p>定員 100名 優先定員 60名</p>	<h3>キャリア教育再考! ~今こそホッペで語り合おう~</h3> <p>学生は自分自身の描く未来の目標に向かって大学に入学し、学んでいく。しかし、学生ひとり一人の夢に向かう原動力をいかに支えていくかは、なかなか難しい。教職員の心、学生知らずで、「本当にこれで就活できるのだろうか?」などと常にやきもきせられるという現実が日常に存在している。さらに、学部・学科・コース等によって「キャリア教育」の比重も意味合いも異なってくる。「キャリア教育」という言葉は狭義にも広義にも使われているが、いったい「キャリア教育」がめざすコアは何だろうか? 今回の分科会では、ユニークな、そして日常的に繰り返されている「キャリア教育」の実例を教職員の立場から、また、社会が求めるホッペの卒業生像について企業側からご報告いただく。分科会に参加していただき皆様と一緒に、今一度「キャリア教育」の現状と課題について考えたい。</p> <p>コーディネーター 河原 宣子氏 京都橋大学 看護学部 教授</p> <p>報告者 堀口 英則氏 金沢星稜大学 進路支援センター長</p> <p>水野 成人氏 近畿日本ツーリスト株式会社 京都支店 副支店長</p> <p>阪本 崇氏 京都橋大学 現代ビジネス学部 教授</p> <p>柴田 英貴氏 京都橋大学 グローバル教育課 課長</p> <p>定員 100名 優先定員 60名</p>	<h3>学生FDと大学マネジメント</h3> <p>FDは教育改革のための教職員の取り組みであるが、大学は教員・職員・学生の三者が構成員であり、学生は単なる受益者ではなく、大学教育の中では主体者である。さらにFD義務化以後、「学生の主体的な学び」が強調されるようになったこともあり、学生の視点から教育改善活動(学生FD活動)が急速に広がっている。なかでも、大学マネジメントの観点からこの学生FDを率先して支援している大学も増えている。今回はその中から5年以上の活動実績を積んでいる追手門学院大学と京都文教大学、さらに最近取り組み始めた中央大学と鳥根県立大学の4大学にお越しいただき、それぞれトップマネジメントの側から教育改革における学生FDへの期待を話していただく。さらに各大学で学生FDを担当している教職員から具体的な活動状況について報告していただき、分科会ではこれら4校の報告を受けて、参加者とともに大学マネジメントの観点から学生FDについて考えたい。</p> <p>コーディネーター 木野 茂氏 立命館大学 共通教育推進機構 教授</p> <p>報告者 山下 一也氏 鳥根県立大学 副学長(出雲キャンパス担当)</p> <p>吾郷 美奈氏 鳥根県立大学 看護学部 教授</p> <p>安村 仁志氏 中央大学 副学長</p> <p>安田 俊哉氏 中央大学 経営戦略室業務総括課担当課長</p> <p>平岡 聡氏 京都文教大学 学長</p> <p>村山 孝道氏 京都文教大学 教務課長</p> <p>川原 俊明氏 学校法人追手門学院 理事長</p> <p>梅村 修氏 追手門学院大学 基盤教育機構</p> <p>岸岡奈津子氏 追手門学院大学 教育開発センター</p> <p>定員 100名 優先定員 60名</p>	<h3>障がい学生支援FDの背景、現状および課題</h3> <p>2016年4月に障害者差別解消法が施行されることになり、大学を含む高等教育の場では障がい学生に対する「修学機会の確保」や「合理的配慮」に努めることが義務化される。視覚や聴覚の障害から、肢体不自由や発達障害などが、学生が抱える障がいは多種多様である。ではこのような障がい学生に対する「修学機会の確保」や「合理的配慮」とはどういうことなのであろうか? 本分科会では、大学全体および個々の授業の現場での取り組みに焦点をあてた幾つかの事例、そして在学中の障がい学生が組織・運営する障がい学生支援推進団体「あすか」の活動のねらいや現状を共有し、前記の課題について参加者全員で考える機会を持ちたい。</p> <p>コーディネーター 佐藤 賢一氏 京都産業大学 総合生命科学部 教授</p> <p>報告者 殿岡 麗氏 全国障害者学生支援センター 代表</p> <p>高橋 知音氏 信州大学 学術研究院(教育学系) 教授</p> <p>辻 悠佳氏 障がい学生支援推進団体あすか 代表(学生)</p> <p>井上 友裕氏 京都産業大学 ボランティアセンター</p> <p>定員 100名 優先定員 60名</p>	<h3>反転授業により学生の能動的な学びへの転換をはかる</h3> <p>学生の能動的な学びを促すための手段として、あるいは学生の授業外学習時間を確保するための手段として、反転授業への注目が高まっている。反転授業は、これまでは主に教室内で行われていた知識獲得の場を、ICTを利用して授業外に移して事前に学習を行い、授業時間を、事前に獲得した知識を元に応用的・発展的な内容についての学びの場として利用するという新たな授業形態である。本分科会においては、海外の動向も踏まえながら、MOOCを含む教育へのテクノロジー利用、学習研究、FD・教育改善といった多様な観点から国内の先進的な実践事例とその成果を提示し、反転授業とそれを実施するための方法論について具体的な学ぶとともに、反転授業が学生の学びの質や量の改善・向上にどのように寄与するのか、その可能性について議論する。</p> <p>コーディネーター 酒井 博之氏 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授</p> <p>報告者 土持 ゲーリー 法一氏 京都大学 高等教育開発センター 教授</p> <p>森 朋子氏 関西大学 教育推進部 准教授</p> <p>大浦 弘樹氏 東京大学 大学院情報学環 特任助教</p> <p>定員 100名 優先定員 60名</p>
<h3>自校教育を通じた「建学の精神」の具現化</h3> <p>京都には多くの大学があるが、それぞれ独自の特色ある「建学の精神」「モットー」を掲げている。それによって学生・教職員が学んで共有することは、学生たちがその大学で学ぶ目的や意義を確かめ、学修を方向付けていくための有効な支援になるものと考えられる。この分科会では初年度に自校教育として取り組まれていく様々な活動を中心に、近年の全般的な傾向と課題について考えてみたい。</p> <p>具体的な実践例としては、キリスト教・仏教に基礎をおく宗教系大学の「建学の精神を具現化するために行われている取り組みについて報告していただく」「ミッション・スクールのミッション」を広く一般学生に伝え、それを共有していくことには特別な難しさがあるように思われるが、全学必修授業の現状と課題、改善の試み等について、今回の報告や採択における実践をもとにディスカッションを行い、今後進むべき方向を探ってみたい。</p> <p>コーディネーター 井上 尚美氏 大谷大学 文学部 准教授</p> <p>報告者 大川 一毅氏 岩手大学 評議室 准教授</p> <p>小原 克博氏 同志社大学 神学部 教授</p> <p>木越 康氏 大谷大学・大谷大学短期大学部 副学長</p> <p>定員 45名 優先定員 25名</p>	<h3>大学の英語教育の課題と対策</h3> <p>大学の英語教育においては、学生の習熟度を持大きな幅があり、そのような様々な習熟度の学生が学修意欲を持続できる体制が必要とされている。このような体制を作るためには、学生の習熟度の把握と、それに対応したクラス編成、教材準備等が必要となる。そこで、スピーカーの方言と学生の現状状況と、それに対する対策を紹介いただき、大学の英語教育の実情を踏まえた上で、今後、大学の英語教育はどのような発展の方向があるのかについて話題提供をいただく。こうした議論の中から、大学/学校で学ぶこと、学ぶ意義、習得すること、評価すること、などといった基本的な問題に立ち返り、教育全体に共通する議論ができればと考えている。</p> <p>この分科会では、午前中に、話題提供者にお話しいただき、午後には、フロアからの質問・コメントなどを話題として、話題提供者の方々に議論を深めていただく方式をとる。</p> <p>コーディネーター 大西 信弘氏 京都三大学教養教育研究・推進機構 教育IRセンター 特任准教授</p> <p>報告者 大津 由紀雄氏 明海大学大学院 応用言語学研究所 教授</p> <p>勅使河原 三保子氏 駒澤大学 総合教育研究部 准教授</p> <p>杉野 直樹氏 立命館大学 情報理工学部 教授</p> <p>定員 45名 優先定員 25名</p>	<h3>時代が求める新たな教養教育 ~「活用」と「探究」をキーワードとした教職協働~</h3> <p>本分科会では、教養教育において、「活用」と「探究」をキーワードに優れた実践を行っている教職員に登壇していただく。鳥根高校の事例は、ゼミナール形式の探究型授業や大学院生をティーチング・アシスタントに招く授業で、教養教育における大規模な取組である。京都産業大学の事例は、全学的見地から主体的な探究活動を促すラーニング・コミュニティを舞台とした、大学職員の教学企画力が発揮された事例である。全学的な教養教育には、教職協働の関口が開かれている。京都三大学教養教育研究・推進機構(京都工芸繊維大学・京都府立大学・京都府立医科大学)の事例は、「教養教育としての教学・カリキュラム」に関するものである。教養教育科目「人と自然と数学α」は、四千年に遡る数学の歴史を参照しながら、数学の色々な考え方をそのコンテプをたどりながら身近に感じてもらう工夫に特徴がある。高等学校における「数学活用」の教科書の内容と重なる部分も多い。</p> <p>コーディネーター 児玉 英明氏 京都三大学教養教育研究・推進機構 教育IRセンター 特任准教授</p> <p>報告者 大倉 弘之氏 京都工芸繊維大学 工芸科学研究科 教授</p> <p>中沢 正江氏 京都産業大学 学長室(教育支援研究開発担当)</p> <p>村石 健氏 京都市立堀川高等学校 教諭</p> <p>定員 45名 優先定員 25名</p>	<h3>学び合うコミュニティをつくる ~学修支援とピア・サポート~</h3> <p>ピア・サポートの概念・システムは、正課・正課外を問わず、現在多くの大学で取り入れられ、実践されている。目的とされているのは、「教える側」と学ぶ側」という方法にとどまらない、学び合い、互いに成長し続けることのできるコミュニティを作り、それを継続的に発展させていくことであると考えられる。</p> <p>このような前提のもと、本分科会では、初年次教育、専門教育、正課外活動などピア・サポートのさまざまな類型ごとに、特色ある実践を行っている教職員の方々よりご報告いただく。その上で実効性あるピア・サポートの枠組みやその課題について、フロアを含めたディスカッションを行い、認識を深めていきたい。</p> <p>コーディネーター 坂本 尚志氏 京都薬科大学 薬学部 講師</p> <p>報告者 景井 充氏 立命館大学 産業社会学部 准教授</p> <p>北野 収氏 獨協大学 外国語学部 教授</p> <p>吉田 えつ子氏 関西大学 学生サービス事務局 ボランティア活動支援グループ</p> <p>定員 45名 優先定員 25名</p>	<h3>知識と思考のクラウド化にどう対応するか</h3> <p>現代の大学生の多くは、生まれた時からインターネットを身近に持ちながら育った。いわゆる「デジタルネイティブ」である。インターネット情報の利用環境の進化は、多くの意思をもたらす一方で、大学生の学業という局面では、新たな課題を生みだしつつある。とくに、膨大な外部情報がありに身近な形でストックされているため、「自前の頭脳」に知識を蓄積することが後回しになり、結果として自立的な思考の力が弱くなってきている。この分科会では、上述の環境変化を仮に「知識と思考のクラウド化」と名付け、それが現在の教育現場でどのような具体的な課題を生んでいるかを見ていきたい。そして、この環境変化に似た大規模な学生がどう対応すべきか、ワークショップ形式で参加者とともに考えたい。</p> <p>コーディネーター 手嶋 英貴氏 京都文教大学 総合社会学部 准教授</p> <p>報告者 依田 博氏 京都文教大学 総合社会学部 教授</p> <p>尾澤 重知氏 早稲田大学 人間科学学術院 准教授</p> <p>定員 45名 優先定員 25名</p>
<h3>全学的FD推進組織の現状と課題</h3> <p>現在、「FDセンター」や「FD委員会」等の名称のもと、ほとんどの大学で全学的なFD推進組織が多様な形で設置されている。一方、ここ数年で、FDの概念は、授業内容・方法の改善から、広く教育の改善、更に研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教員の組織的な職能開発へと展開し、教職協働も視野に入れ、近年では高大接続教育や学修支援、教育IR、自己点検・評価なども、その射程に入っている。</p> <p>本分科会では、時代とともに拡がりをみせるFDの射程に対し、全学的FD推進組織が、他の学内組織との関係など、様々な条件の中で、どのようにFDを位置づけ、変遷してきたのか、事例報告をもとに、参加者の所属大学の状況と比較しながら、全学的FD推進組織の現状と課題についてディスカッションを行う。</p> <p>コーディネーター 長谷川 岳史氏 龍谷大学 大学教育開発センター長/経営学部教授</p> <p>報告者 沖 裕貴氏 立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター長・教授</p> <p>川上 忠重氏 法政大学 教育開発支援機構 FD推進センター FD推進プロジェクトリーダー/理工学部教授</p> <p>吉村 充功氏 日本文理大学 工学部 教授</p> <p>中山 郁氏 國學院大学 教育開発推進機構 准教授</p> <p>定員 45名 優先定員 25名</p>	<h3>小規模大学における学修支援</h3> <p>学生の能動的な学びを促すため、各大学において様々な形での学修支援というサポートが行われてきている。しかし、それらの取り組み例では、大規模な大学でなければならぬことができないものも多く、多様な研究分野に渡り少人数員しか配置されていない小規模大学の場合、単にそれらをスケールダウンすることで導入することには限界がある。それゆえ各大学は数名のFD委員を中心に試行錯誤のやり探り状態で学修支援を行わざるを得ない。しかし、逆に多様な研究分野による人的ネットワークを駆使する、小規模大学だからこそできる学修支援もあるはずである。小規模3大学の実施例の紹介と併せて、広く学修支援の今を話題にし、今後の可能性を探ってみたい。</p> <p>コーディネーター 巻本 彰一氏 京都教育大学 教育学部 准教授</p> <p>報告者 大竹 博巳氏 京都教育大学 教育学部 准教授</p> <p>谷川 裕裕氏 四国大学短期大学部 幼児教育保育科 教授</p> <p>吉村 充功氏 日本文理大学 工学部 教授</p> <p>定員 45名 優先定員 25名</p>	<h3>大学図書館からの学習支援の工夫 ~連携を視座に~</h3> <p>今、大学図書館では、変革する大学にあって求められる大学図書館像として学習支援や教育活動への直接的な関与が必要となっている。では、大学図書館は学生にとってどのような学習支援を必要とするのだろうか。当分科会では、学習スキルの手だての工夫、ラーニング・コミュニティの事例を、図書館職員・単にそれらをスケールダウンすることで導入することには限界がある。それゆえ各大学は数名のFD委員を中心に試行錯誤のやり探り状態で学修支援を行わざるを得ない。しかし、逆に多様な研究分野による人的ネットワークを駆使する、小規模大学だからこそできる学修支援もあるはずである。小規模3大学の実施例の紹介と併せて、広く学修支援の今を話題にし、今後の可能性を探ってみたい。</p> <p>コーディネーター 松戸 宏予氏 佛大大学 教育学部 准教授</p> <p>報告者 矢崎 美香氏 九州女子大学・九州女子短期大学 附属図書館 業務課 副主幹</p> <p>飯野 勝則氏 京都大学 附属図書館 専門員</p> <p>北村 由美氏 京都大学 附属図書館研究開発室 准教授</p> <p>コーディネーター 山本 順一氏 桃山学院大学 経営学部・経営学研究所 教授</p> <p>定員 45名 優先定員 25名</p>	<h3>モチベーションクライシスと向き合う</h3> <p>大学では4年間の高等教育による支援を実施し、卒業して豊かな知識や技術を身につけて社会に巣立っていく若者たちを送り出す機関である。だが、近年は入学してすぐに登校しないケースや途中の学年で退学していく学生も増えている。多くの大学ではこれら学生への抱える悩みや不安などに対応するためにさまざまな支援策の実施がなされていると思われるが、その策の効果について、多くの大学が事例を持ち寄り確かめ合おうとしている。例えば、学生相談に対する取り組みと課題、学修支援としての取り組みと課題、学習支援のための取り組みと課題、ピアサポートによる取り組みと課題などが考えられるが、モチベーションクライシスに向き合い、学生たちを支援していく場合には、教員はもちろんのこと、職員も含めて、学生の保護者や関係機関団体との連携も必要である。今回は、教員と職員が協働して行う連携支援の必要と実際についての事例報告後に参加者によるグループワークを行うこととする。※モチベーションクライシス=大学生の学習(大学生活)に対する意識の急激な低下とする。</p> <p>コーディネーター 三好 明夫氏 京都ノートルダム女子大学 生活福祉文化学部 教授</p> <p>報告者 大谷 麻予氏 京都産業大学 共通教育推進機構</p> <p>眞砂 照美氏 広島国際大学 医療福祉学部 教授</p> <p>永野 典詞氏 九州ルーテル学院大学 人文学部 教授</p> <p>窪 貴志氏 株式会社エンケージ 代表取締役</p> <p>定員 45名 優先定員 25名</p>	
<h3>情報交換会 京都ブライトンホテル 地下1階「英の間」</h3> <p>1日目 2月28日(土) 18:00~19:30</p> <p>※当日は、寒梅館前より京都ブライトンホテル行きのシャトルバスを運行いたします。</p>	<h3>ポスターセッション 良心館</h3> <p>2日目 3月1日(日)</p> <p>ポスターセッション 10:00~15:30 コアタイム 12:00~13:30</p> <p>ポスターセッションでは、大学コンソーシアム京都加盟校の教職員・学生が実施する特徴的な取り組みを発表します。新たな情報収集や、参加者間の交流の場としてご利用ください。</p>	<h3>企業ブース 1日目寒梅館 2日目良心館</h3> <p>企業ブースでは、大学教育に関連のある企業が出展いたします。</p>		